

科目名 クラス 講義区分
日本語教授法 I <通期>
【教員氏名】 有川 康二
【単位数】 4 単位
【演習概要】 どんな教授法（教え方の哲学や方法）、どんな教科書にも長所と短所があります。要は、様々な教授法や教科書の長所をなるべく多く利用することです。そのためには、何が長所で、何が短所になるのかを理解しておかなければなりません。例えば、語学学習の命であるドリル（稽古）についていえば、機械的な形の練習だけでなく、より現実に近い状況や会話の十分な練習があれば長所と言えます。日本語の初級文法に焦点を絞り、（教師のための）実践的な文法整理と、（学習者のための）効果的なドリルの紹介やシミュレーションを行います。
【学習目標】 一定の制限された状況（教室）や時間内（初級の集中コースとして例えば週15時間で約6か月）に、日本語を母語としない人に日本語文法全体の基礎的な体系を順序よく説得的に説明し、効果的に練習（ドリル）を行い、「使える日本語」を身につけてもらうためには、教える側に特別の知識と技術が必要となります。何語でもそうですが、ある言葉が母語としてペラペラ話せることと、その言葉を外国語として学習する人に体系的、説得的に教えることのできる能力とは別物です。日本語の母語話者は日本語学習者と適当に世間話はできますが、初級の学習者に日本語の文法や文パターンを効果的、説得的に教えることはできません。初級レベルで学習者が興味を失つてしまったら、それまでです。ある意味では初級レベルが最も難しいと言えます。文法の質問から逃げる日本語教師は学習者には信頼されません。また同時に、「何故、私は外国語を学ぶのか？何故、私は日本語を外国語として教えるのか？日本語を教えるという仕事を通して私には何ができるのか？」という問い合わせ続けなくてはならないと思います。
【講義計画】 第1回：イントロ 外国語教授法のイロハとは何か？ どんな授業がよいのか？ どんな教材が必要なのか？ どんな仕事に就ける可能性があるのか？ 本学の先輩達は日本語教員資格を取得してどんな所で仕事をしているのか？ 第2回：指示表現（コソアド）（1） 第3回：指示表現（2） 第4回：形容詞（イ形容詞／ナ形容詞）（1） 第5回：形容詞（2） 第6回：存在表現（アル／イル）（1） 第7回：存在表現（2） 第8回：時制（テンス）と相（アスペクト）（1） 第9回：時制（テンス）と相（アスペクト）（2） 第10回：保留形（テ形）（1） 第11回：保留形（テ形）（2） 第12回：願望の助動詞（ta/gar）（1） 第13回：願望の助動詞（2） 第14回：可能の助動詞（e/（ra）re）（1） 第15回：可能の助動詞（2） 第16回：様態・伝聞・推量の助動詞（アノばんハオイシソウダ／オイシソウダ／オイシヨウダ／オイシイラシイ）（1） 第17回：様態・伝聞・推量の助動詞（2） 第18回：テイル・テアル・テオク（窓ガ開イテイル／窓ガ（ヲ）開ケテアル／窓ヲ開ケテオク）（1） 第19回：テイル・テアル・テオク（2） 第20回：授受表現（（テ）モラウ／イタダク，（テ）クレル／クダサル，（テ）ヤル／アゲル／サシアゲル）（1） 第21回：授受表現（2） 第22回：態（受身（イジメラレル）・使役（イジメサセル）・使役受身（イジメサセラレル））（1） 第23回：態（2） 第24回：条件表現（離婚シタラ～／離婚スルナラ～／離婚スレバ～／離婚スルト～）（1） 第25回：条件表現（2） 第26回：敬語（オ話シニナル／オ話シスル／オッシャル／申ス／ナサル／イタス等）（1） 第27回：敬語（2） 第28回：復習とQ&A

第29回：復習とQ&A 第30回：復習とQ&Aと試験
【成績評価の方法】 試験評価：100%
筆記試験、出席点、平常点。尚、出席点は、単に椅子に座っている（または、隣人と無駄話をしている、または、寝ている）のではなく、質問コメント用紙に積極的に質問やコメントをして、建設的に授業に参加し貢献したなども含めた総合的な平常点として考慮します。
【テキスト】 東京 YMCA 日本語学校『入門日本語教授法』創拓社、
【参考文献】 三浦昭(1983)『初級ドリルの作り方』凡人社 岡崎敏雄(1989)『日本語教育の教材-分析・使用・作成』アルク Makino, S. and Tsutsui, M. (1986) A dictionary of basic Japanese grammar-日本語基本文法辞典 . The Japan Times.
【準備学習の指示】 本学には世界の様々な国から留学生が来て日本語や日本文化について勉強しています。留学生の人たちと話をしてみてください。